

船橋市社会科セミナー通信

第151号

4.19土報告

勉強会会場はいつもの「プラウドタワー船橋」。今回は会長の池田先生が不在でした。平成26年度第1回目で、出席者は、関紀和先生（御滝中）、小倉隆志先生（浦安市教育委員会）、佐藤一巳先生（）、富澤眞也先生（大穴中）、谷川一仁先生（南本町小・長研）、事務局長・会場担当の大野 肇（千葉県立行徳高校）の**合計6名**でした。今回も残念ながら、10名に届きませんでした。



1本目 小・中(社会)・高(地歴・公民)学習指導要領の目標から小・中・高の関連について

千葉県立行徳高等学校 大野 肇

1. 小学校社会科<目標>

社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

〔第3学年及び第4学年〕、〔第5学年〕〔第6学年〕 省略

2. 中学校社会科<目標>

広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

〔地理的分野〕〔歴史的分野〕〔公民的分野〕 省略

3. 高等学校地歴科<目標>

我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養う。

<各科目> 世界史A、世界史B、日本史A、日本史B、地理A、地理B 省略

4. 高等学校公民科<目標>

広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、民主的、平和的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。

<各科目> 現代社会、倫理、政治・経済 省略

2本目 条約改正～小・中(社会)・高(地歴・公民)の 関連について

千葉県立行徳高等学校 大野 肇

1. 小学校社会科

○内容[第6学年] (1) ク

大日本帝国憲法の発布，日清（にっしん）・日露の戦争，条約改正，科学の発展などについて調べ，我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことが分かること。

この内容は，明治中・後期から大正期における，大日本帝国憲法の発布，日清・日露の戦争，条約改正，科学の発展などの歴史的事象を取り上げ，これらを具体的に調べることを通して，我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことが分かるようにすることをねらいとしている。～中略～

「条約改正」について調べるとは，例えば，外務大臣であった陸奥宗光や小村寿太郎の働きなどを取り上げて調べ，幕末に欧米諸国との間で結ばれた不平等な条約を対等なものに改める交渉を進め，条約改正に成功したことが分かるようにすることである。

○内容の取扱い

エ アからクまでについては，例えば，次に掲げる人物を取り上げ，人物の働きを通して学習できるように指導すること。

卑弥呼(ひみこ)，～中略～ 陸奥宗光(むつむねみつ)，東郷平八郎(とうごうへいはちろう)，小村寿太郎(こむらじゅたろう)，野口英世(のぐちひでよ)

2. 中校社会科 内容[歴史的分野]

○大項目 (5) 近代の日本と世界

ア 欧米諸国における市民革命や産業革命，アジア諸国の動きなどを通して，欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解させる。

イ 開国とその影響，富国強兵・殖産興業政策，文明開化などを通して，新政府による改革の特色を考えさせ，明治維新によって近代国家の基礎が整えられて，人々の生活が大きく変化したことを理解させる。

ウ 自由民権運動，大日本帝国憲法の制定，日清（にっしん）・日露戦争，条約改正などを通して，立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに，我が国の国際的地位が向上したことを理解させる。

エ 我が国の産業革命，この時期の国民生活の変化，学問・教育・科学・芸術の発展などを通して，我が国で近代産業が発展し，近代文化が形成されたことを理解させる。

オ 第一次世界大戦の背景とその影響，民族運動の高まりと国際協調の動き，我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などを通して，第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと，大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解させる。

カ 経済の世界的な混乱と社会問題の発生，昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き，中国などアジア諸国との関係，欧米諸国の動き，戦時下の国民の生活などを通して，軍部の台頭から戦争までの経過と，大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させる。

○ 3 内容の取扱い [歴史的分野] (1)～(5) (6) ア～イ省略

ウ ウの「日清・日露戦争」については，このころの大陸との関係に着目させること。「条約改正」については，欧米諸国と対等の外交関係を樹立するための人々の努力に気付かせるようにすること。

「立憲制の国家が成立して議会政治が始まる」については，その歴史上の意義や現代の政治とのつながりに気付かせるようにすること。

この中項目のねらいは，立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに，我が国国際的地位が向上したことを，次の各事項の学習を通して理解させることである。～中略～

「日清・日露戦争」については、長年にわたる外交上の課題として取り組まれたことと、「欧米諸国と対等の外交関係を樹立するための人々の努力」（内容の取扱い）に気付かせる。

エ～カ 省略、(7) 省略

3. 高等学校地歴科 内容[世界史A] *教科書の記述なし

(3)「地球社会と日本」

地球規模で一体化した構造をもつ現代世界の特徴と展開過程を理解させ、人類の課題について歴史的観点から考察させる。その際、世界の動向と日本とのかかわりに着目させる。

イ 世界戦争と平和

帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、二つの世界大戦の原因と総力戦としての性格、それらが世界と日本に及ぼした影響を理解させ、19世紀後期から20世紀前半までの世界の動向と平和の意義について考察させる。

ここでは、19世紀後期から20世紀前半までの世界を扱い、帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、二つの世界大戦を中心に理解させ、国際政治の動向と平和の意義について考察させる。

まず、欧米諸国は工業製品の市場や資本の輸出先、資源確保のためにアジア・アフリカなどに進出し、軍事力を背景に植民地獲得や勢力圏拡大の競争を繰り広げたことを理解させる。欧米諸国の進出に対してアジア・アフリカでは、次第に民族意識が醸成され、各地で様々な対応が起こったことを理解させる。日本に関しては、日清戦争、日露戦争がこのような世界情勢の中で行われたことに着目させるとともに、この時期に近代産業が成立したことや不平等条約の改正に成功したことに触れる。

～以下省略～

4. 高等学校地歴科 内容[世界史B] *教科書の記述なし

(5)「地球世界の到来」

科学技術の発達や生産力の著しい発展を背景に、世界は地球規模で一体化し、二度の世界大戦や冷戦を経て相互依存を一層強めたことを理解させる。また、今日人類が直面する課題を歴史的観点から考察させ、21世紀の世界について展望させる。

ア 帝国主義と社会の変容

科学技術の発達、企業・国家の巨大化・国民統合の進展、帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、国際的な移民の増加などを理解させ、19世紀後期から20世紀初期までの世界の動向と社会の動向と社会の特徴について考察させる。

ここでは、19世紀後期から20世紀初期までの世界を扱い、工業化の進展に伴う国家・社会の変化を理解させ、帝国主義諸時代の世界の動向と社会の特徴について考察させる。まず、～中略～

日本に関しては、日清戦争、日露戦争がこのような世界情勢の中で行われたことに着目させるとともにこの時期に近代産業が成立し、不平等条約の改正に成功したことに触れる。

～以下省略～

5. 高等学校地歴科 内容[日本史A] *教科書の記述が詳しい

(2)「近代の日本と世界」

開国前後から第二次世界大戦終結までの政治や経済、国際環境、国民生活の文化や動向について、相互の関連を重視して考察させる。

この大項目では、開国前後から第二次世界大戦の終結までを扱い、政治、経済、国際環境、国民生活、文化の動向を相互の関連させて考察させることをねらいとしており、歴史の展開と生徒自身との結び付きに気付かせることに留意して、諸事象を国民生活にかかわらせて考えさせることを重視し

ている。～以下省略～

ア 近代国家の形成と国際関係の推移

(ア) 近代の萌芽や欧米諸国のアジア進出、文明開化などに見られる欧米文化の導入と明治政府による諸改革に伴う社会や文化の変容、自由民権運動と立憲体制の成立に着目して、開国から、明治維新を経て近代国家が形成される過程について考察させる。

ここでは、開国前後から近代国家の基礎が形成されるまでの我が国の動向を、政治的な視点を重視して考察させる。～以下省略～

(イ) 条約改正や日清・日露戦争前後の対外関係の変化、政党の役割と社会的な基盤に着目して、国際環境や政党政治の推移について考察させる。

ここでは、近代国家形成以降の我が国の動向を、国際環境と関連させ、政治的な視点を重視して考察させる。

従前の内容(2)の「ウ 国際関係の推移と近代産業の成立」のうちの政治や国際関係にかかわる内容を、大きな流れとしてとらえさせるようにした。

「国際環境」の推移については、条約改正によって、我が国が不平等な立場を脱却することができたことの意義に気付かせるとともに、その背景に東アジアをめぐる英露の対立などの国際情勢にあったことを考察させる。～以下省略～

6. 高等学校地歴科 内容[日本史B]

*教科書の記述が日本史Aの2分の1から3分の1程度

(4) 「近代の日本の形成と世界」

近代国家の形成と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。

この大項目では、ペリー来航から明治時代末期までを扱い、近代国家の形成過程を、社会や文化の特色に留意し、国際環境と関連付けて総合的に考察させることをねらいとしている。～以下省略～

ア 明治維新と立憲体制の確立

開国と幕府の滅亡、文明開化などの欧米の文化・思想の影響や国際環境の変化、自由民権運動と立憲体制の成立に着目して、明治維新以降の我が国の近代化の推進過程について考察させる。

ここでは、開国前後から近代国家の基礎が形成されるまでの過程を扱う。～以下省略～

イ 国際関係の推移と立憲国家の展開

条約改正、日清・日露戦争とその前後のアジア及び欧米諸国との関係の推移に着目して、我が国の立憲国家としての展開について考察させる。

ここでは、明治時代後期の国内政治と国際情勢の動向を扱う。

「我が国の立憲国家としての展開」については、この時期の国内政治と国際環境とを相互に関連付けて考察させる。初期議会など立憲体制成立前後から政党と藩閥の抗争の時期を経て第一次世界大戦に至る国内政治の動きについて、国際環境と関連させて考察させる。

また、条約改正の経緯に着目して、諸法典の整備など国内体制の確立が図られたことを考察させる。その際、不平等を改正し欧米諸国と対等な地位に立つことが、我が国が近代国家として国際的地位を確立する上で意義のあったことに気付かせる。

さらに、日清・日露戦争前後に我が国が資本主義国家としての基礎を確立したことを踏まえ、戦争に至る過程や、両戦争後我が国が韓国併合や満州（現在の中国東北地方）への勢力の拡張などを通じて植民地支配を進めたことを、国内政治の動向や英露の対立などの国際環境と関連させながら考察させる。こうした動きを扱うに当たっては、国民の対外意識の変化に触れるとともに、アジア近隣諸国民が我が国の対外姿勢をどのように受け止めたかについて考えさせることも必要である。特に、日露戦争における勝利がアジア諸民族の独立や近代化の運動に刺激を与えたことに気付かせる。

3本目 条約改正(中学校社会)の実践例

千葉県立行徳高等学校 大野 肇

2年生社会科学学習指導案 平成19年度・習志野三中勤務時に大野が授業研で実施した。

- 1 単元名
立憲政治のはじまりと日清・日露戦争
- 2 単元について
この単元では、19世紀後半の開国と明治維新以降の我が国の歴史を世界の動きとのかかわりの中で取り上げる。以下省略
- 8 本時の指導
 - (1) 本時の目標
 - ①条約改正や日清戦争前後の日本を取り巻く国際情勢の変化に気づかせ、その後日本の内政や外交がどのように進んだかを予想させる。
 - ②日本の国際的地位の向上を条約改正の経過と背景を通して理解させる。
 - (2) 本時の観点別評価項目
 - 関心・意欲・態度
日本と列強諸国との関係を多角的にとらえ、条約改正に至る要因を意欲的に調べ、発表しようとする。
 - 思考・判断
東アジアを取り巻く国際情勢の変化に気づき、その後日本の内政や外交がどのように進んだかを予想できる。
 - 技能・表現
文書や写真、表など様々な資料を正確に読み取り、事象を表現することができる。
 - 知識・理解
領事裁判権の撤廃や関税自主権の確立について正確に記述や発言をすることができる。
 - (3) 展開

過程	時間配	学習活動と内容	学習形態	教師の指導・支援と評価項目・評価方法
導入	10分	ビゴ作「ノルマントン号事件」の風刺画を見て内容を想起する。 (資料①「ノルマントン号事件」風刺画)	一斉	◎風刺画の描写から気づいたことを発言することができる。
展開	35分	ノルマントン号事件の概要を資料で読み、その原因や結果をメモする。 事件についての感想を発表する。 (資料②「ノルマントン号事件」概要～資料集P125) 事件の原因となった幕末の不平等条約の内容を記述し、発表する。 《課題把握》 「日本はどのように条約改正を進めたのだろう。」 条約改正のために国が行った内容を調べる。(資料③「岩倉使節団」写真) 条約改正の条件として、我が国に何が不足していたのかを考える。 「欧化政策(資料集P125)を読む。 外国人が当時の日本をどのように見ていたのかを資料をもとに気づき、発表する。 (資料③「外国人から見た鹿鳴館」～資料集P126) 最初に治外法権が撤廃されたのはいつで、相手国はどこかを教科書で確認する。 なぜイギリスが最初に条約改正を認めたのか、その理由を国際情勢をふまえて考える。		◎事件が不平等条約に起因することに気づき、指摘することができる。 ・事件を通し、わが国が極めて不利な立場に置かれていたことに気づかせ、日本の近代化に条約改正が不可欠の条件であったことを助言する。 ◎わが国が結ばされた不平等条約の内容を具体的に列挙し、発表することができる。 ・「治外法権」や「関税自主権」の言葉の意味だけでなく、それらが政府や国民にとってどのように不利なのかを具体的に想起させる。 ・日本が条約改正を進めた時の具体的な努力を資料集等から見つけさせる。 ◎法整備や国会開設など、近代国家への整備が条件であったことに気づき、発言できる。 ◎「鹿鳴館時代」の特徴を写真等から指摘することができる。 ・欧米列強の対立がイギリスによる日本への接近の背景にあったことに触れる。 ・条約改正が対等な外交関係の樹立であり、その成功にはさまざまな要因が関係している

		(資料④「ビゴアの描いた風刺画」教科書 P126)	ことに気付かせる。 ・表面的な欧化だけでは条約改正ができなかったことに気付かせる
まとめ	10分	なぜ条約改正に成功したか、その理由を考える。 条約改正までの過程をワークシートに記述し、条約改正に必要な条件や背景を箇条書きにする。 今後の日本の国際関係の中での進路を予想し、次時の予告を聞く。	一斉 ・ワークシートの略年表から、条約改正の達成までにどれだけの年月がかかったかも調べさせる。 ・改正年を確認させ、安政5カ国条約締結から50年を経ていることに気づかせる。

<板書計画>

1886年 ノルマントン号事件
→ 不平等条約改正への動き

(安政の5カ国条約) 修好通商条約
・領事裁判権
・関税自主権

「日本はどのように条約改正を進めたのか？」
岩倉使節団→条約改正交渉失敗 (足りなかったもの)
・
・
(明治政府の努力)
・欧化政策
・法律の整備や国会の開設
・不平等条約の改正

↓
欧米諸国との条約改正の交渉

1894年 領事裁判権の撤廃 (陸奥宗光)
1911年 関税自主権の回復 (小村寿太郎) ⇒ 日本の国際的地位の向上

ビゴア 風刺画

Pカード (岩倉使節団) 等

地図資料

5月セミナー予定 5月24日(土)

<勉強会>は、プラウドタワー船橋1階入口 3:00集合

①知っ得ニュース ②報告者募集中!

※終了後 船橋駅周辺で 6:30頃から<懇親会>

→勉強会・懇親会、それぞれの出欠を至急、池田宛てにお知らせください

